

# テンプレートン世界債券ファンド

限定為替ヘッジコース

為替ヘッジなしコース

毎月分配型・為替ヘッジなしコース

(愛称：地球号)

限定為替ヘッジコース/為替ヘッジなしコース

第23期(決算日 2022年6月20日)

毎月分配型・為替ヘッジなしコース

第132期(決算日 2022年1月20日)

第133期(決算日 2022年2月21日)

第134期(決算日 2022年3月22日)

第135期(決算日 2022年4月20日)

第136期(決算日 2022年5月20日)

第137期(決算日 2022年6月20日)

## 運用報告書(全体版)

### 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「テンプレートン世界債券ファンド」は2022年6月20日に決算(限定為替ヘッジコース/為替ヘッジなしコースは第23期、毎月分配型・為替ヘッジなしコースは第137期)を行いました。ここに、限定為替ヘッジコース/為替ヘッジなしコースの第23期、毎月分配型・為替ヘッジなしコースの第132期から第137期の運用状況をご報告申し上げます。今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

フランクリン・テンプレートン・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。



FRANKLIN  
TEMPLETON

フランクリン・テンプレートン・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

〈お問い合わせ先〉

電話番号：03-5219-5947

(営業日の9:00~17:00)

<https://www.franklintempleton.co.jp>

お客様の口座内容などに関するお問い合わせは、お申込みされた販売会社までお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/債券
信託期間	無期限
運用方針	主として、世界各国(新興国を含む)の国債および政府機関債等に実質的な投資を行い、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。
主な投資対象	主として、以下の外国投資証券および投資信託受益証券に投資を行います。 「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズ-テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド(ルクセンブルク籍投資法人)」「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」
組入制限	投資信託証券および短期金融商品(短期運用の有価証券を含みます。)以外への直接投資は行いません。 投資信託証券への投資割合には制限を設けません。外資建資産への直接投資は行いません。 同一銘柄の投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時(限定為替ヘッジコース/為替ヘッジなしコースは毎年6月および12月の20日(休業日の場合は翌営業日)、毎月分配型・為替ヘッジなしコースは毎月20日(休業日の場合は翌営業日))に、基準価額水準、市況動向等を勘案して収益分配金額を決定します。 分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 なお、毎月分配型・為替ヘッジなしコースは6月および12月以外の月の決算時の分配については、原則として配当等収益を中心とするものとします。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## 目 次

<b>テンプレートン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース</b> .....	<b>1</b>
最近5期の運用実績、当期中の基準価額の推移 .....	1
運用経過 .....	2
1万口当たりの費用明細 .....	7
売買及び取引の状況、利害関係人との取引状況等、第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況、組入資産の明細 .....	9
投資信託財産の構成 .....	10
資産、負債、元本及び基準価額の状況、損益の状況 .....	11
分配金のお知らせ .....	12
<b>テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース</b> .....	<b>13</b>
最近5期の運用実績、当期中の基準価額の推移 .....	13
運用経過 .....	14
1万口当たりの費用明細 .....	19
売買及び取引の状況、利害関係人との取引状況等、第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況、組入資産の明細 .....	21
投資信託財産の構成 .....	22
資産、負債、元本及び基準価額の状況、損益の状況 .....	23
分配金のお知らせ .....	24
<b>テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース</b> .....	<b>25</b>
最近30期の運用実績 .....	25
当作成期中の基準価額の推移 .....	26
運用経過 .....	27
1万口当たりの費用明細 .....	32
売買及び取引の状況、利害関係人との取引状況等、第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況、組入資産の明細 .....	34
投資信託財産の構成、資産、負債、元本及び基準価額の状況 .....	35
損益の状況 .....	36
分配金のお知らせ .....	38
<b>投資対象ファンド</b> .....	<b>39</b>
フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンドの運用状況について .....	39
日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の運用状況について .....	45

## テンブルトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース

### ○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額		投 資 信 託 証 組 入 比 率	純 資 産 総 額
		税 分 込 配 金	騰 落 率		
19期(2020年6月22日)	円 10,015	円 10	% △4.3	% 99.0	百万円 4,222
20期(2020年12月21日)	9,955	10	△0.5	99.0	3,981
21期(2021年6月21日)	9,665	10	△2.8	98.6	3,779
22期(2021年12月20日)	9,330	10	△3.4	97.5	1,106
23期(2022年6月20日)	8,807	10	△5.5	99.0	951

(注) 基準価額（1万円当たり）の期中騰落率は分配金込みです。

(注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

(注) 投資信託証券組入比率は、純資産総額に対する比率です。

### ○当期中の基準価額の推移

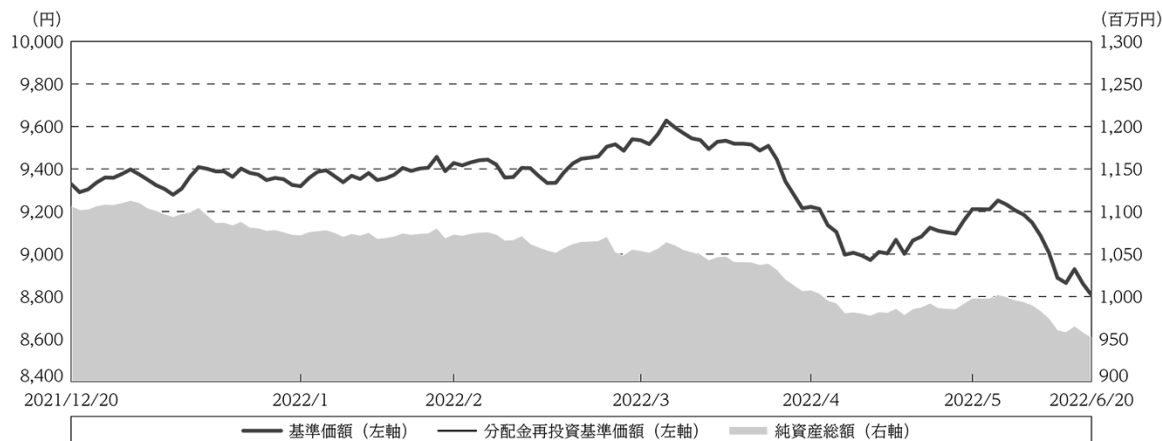
年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 証 組 入 比 率
		騰 落	率	
(期 首) 2021年12月20日	円 9,330		% -	% 97.5
12月末	9,375		0.5	97.7
2022年1月末	9,319		△0.1	98.8
2月末	9,428		1.1	99.1
3月末	9,535		2.2	98.9
4月末	9,222		△1.2	98.4
5月末	9,211		△1.3	99.3
(期 末) 2022年6月20日	8,817		△5.5	99.0

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

## ○運用経過

(2021年12月21日～2022年6月20日)

### 期中の基準価額等の推移



期 首：9,330円

期 末：8,807円 (既払分配金(税込み):10円)

騰落率：△ 5.5% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2021年12月20日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定していません。

### ○基準価額の主な変動要因

主な投資対象ファンドである「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンダーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)  
の円建て外国投資証券「Class I (Mdis) JPY-H1」(以下、JPY限定為替ヘッジ・クラスといいます。)  
の分配金再投資基準価額が前期末と比べ下落したことから、当ファンドの分配金再投資基準価額は下落しました。詳しくは後掲の「■投資環境」をご参照ください。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からのインカムゲイン
- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等の価格変動
- ・投資を行っている先進国通貨および新興国通貨の対米ドルの価格変動
- ・米ドル売り円買いの為替予約取引等による為替ヘッジコスト

## 投資環境

### (債券市場)

当期の米国債券市場は、利回りが上昇（価格は下落）しました。期の前半は、新型コロナウイルスの新たな変異株（オミクロン株）に対する懸念により、利回りは低下して始まりましたが、その後は、オミクロン株の感染拡大に対する過度の警戒感が和らいだことや、米連邦準備制度理事会（FRB）による金融政策の正常化が予想以上に早く進むとの見方が広がったことなどから、利回りは上昇しました。期の半ばは、FRBによる金融政策の正常化観測を背景に、利回りの上昇が続きましたが、ウクライナ情勢が悪化し、投資家のリスク回避姿勢が意識されると、利回りは低下しました。その後は、原油価格が急騰し、インフレ圧力が増すとの警戒感が強まったことや、FRBが0.25%の利上げを決定したことなどから、利回りは上昇しました。期の後半は、FRBによる0.5%幅の追加利上げを織り込む形で、利回りは上昇しました。その後、FRBによる積極的な金融引き締めによる米国景気への影響が懸念され、株式相場が下落基調となったことから、利回りは低下しましたが、引き続きFRBの積極的な利上げ観測により、利回りは上昇しました。

当期の欧州債券市場は、利回りが上昇（価格は下落）しました。期の前半は、オミクロン株の感染拡大に対する過度の警戒感が和らいだことや、欧州エネルギー市場における天然ガス価格の上昇を背景にインフレの長期化観測が広がったことなどから、利回りは上昇しました。期の半ばは、欧州中央銀行（ECB）が金融政策の正常化を想定より早く進めるとの見方が広がったことから、利回りは上昇しましたが、ウクライナ問題を巡り、欧米によるロシアへの制裁強化により欧州経済への影響が懸念されると、低下しました。その後は、原油価格が急騰し、インフレへの警戒感が高まったことや、ECBが量的緩和の縮小を加速する方針を発表したことなどを受けて、利回りは上昇しました。期の後半は、ECBが金融政策の正常化を進めるとの見方が根強い中、利回りの上昇が続きしました。その後、当期末にかけては、ウクライナ紛争の長期化による欧州景気への影響が懸念されたことなどから、利回りが一進一退となる局面も見られましたが、ECBが量的緩和措置である資産購入プログラムを2022年7月に終了する一方、同月から利上げを開始する方針を示したことなどから、利回りは再び上昇しました。

新興国債券の利回りは、インフレ懸念などを背景に概ね上昇しました。

### (外国為替市場)

当期の米ドル・円相場は、米ドル高・円安となりました。期の前半は、一進一退の展開となりました。新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大への警戒感から米国株式相場が軟調となる場面で米ドルは対円で上値の重い展開となりました。一方、FRBによる金融政策の正常化が予想以上に早く進むとの見方が広がったことは、米ドル買い・円売りを促す要因となりました。期の半ばに入ってから、一進一退の展開が続きましたが、ロシアによるウクライナ侵攻を受けた原油高でインフレ懸念が強まり、米国国債利回りが上昇する

# FRANKLIN TEMPLETON®

と、日米金利差の拡大に伴い、米ドル買い・円売りが優勢となりました。期の後半は、FRBが金融引き締めペースを加速するとの観測が広がった一方で、日銀が金融緩和策を維持する姿勢を継続していることから、日米の金融政策の方向性の違いが意識される中、米ドル買い・円売りが強まりました。その後は、急速な円安に対する警戒感や米国国債利回りの低下などを受けて、米ドルは対円で伸び悩みとなる場面もみられましたが、再びFRBの積極的な金融政策に焦点があたったことから、米ドルは堅調に推移しました。

当期のユーロ・円相場は、ユーロ高・円安となりました。期の前半は、新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大に対する過度の警戒感が後退すると、ユーロは対円で底堅い動きとなりました。また、ECB総裁がインフレへの警戒感を示し、ECBによる2022年内の利上げ開始観測が浮上したことから、ユーロ買い・円売りが優勢となりました。期の半ば、ウクライナ情勢の悪化を受けて欧州経済への影響が懸念されたことなどから、ユーロは対円で下落しましたが、ウクライナとロシアの停戦交渉に対する進展期待が高まると、反発しました。期の後半は、ECBによる金融政策の正常化が進むとの観測が根強い中、金融緩和を継続する日銀との政策方向の違いを意識したユーロ買い・円売りが強まりました。その後は、新型コロナウイルスの感染が拡大する中国でロックダウン（都市封鎖）が拡大し、世界経済の減速につながるなどの懸念が広がったことから、ユーロ売り・円買いが優勢となりました。しかし、ECBが量的緩和措置である資産購入プログラムを2022年7月に終了する一方、同月から利上げを開始する方針を示したことなどから、国債利回りが上昇する中、ユーロ高・円安が進みました。

新興国通貨の動きは、対円で概ね堅調となりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(テンプレート世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース)

「テンプレート世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレート・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」受益証券への投資も行いました。

(投資対象ファンド：テンプレート・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス)

<国・地域配分>

主な国・地域別配分については、韓国、インドネシア、ブラジル、ノルウェー、スウェーデンなどへ投資しました。

<通貨別配分>

主な通貨別配分については、韓国ウォン、米ドル、中国元などを買い建てとする一方で、ユーロなどを売り建てしました。

### <信用格付別配分>

主な配分については、投資適格債を中心に、非投資適格債も一部組み入れました。

なお、「テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス」において、ポートフォリオの通貨配分にかかわらず、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り・円買いの為替予約取引等により、対円での為替ヘッジを行いました。

(2022年5月末時点)

### (投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し信託財産の安定的な成長を目指して安定運用を行いました。

### 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

### 分配金

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して次表の通りとさせていただきます。なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

### ○分配原資の内訳

(単位：円、1万円当たり、税込み)

項 目	第23期
	2021年12月21日～ 2022年6月20日
当期分配金	10
(対基準価額比率)	0.113%
当期の収益	10
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	4,687

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○今後の運用方針

### (テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス」および「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」へ投資を行います。「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

### (投資対象ファンド：テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス)

#### ○市場見通し (2022年5月末時点)

インフレの要因は地域毎に異なる中、年内は概ね過去の平均水準を上回ると予想しています。欧州では、エネルギー価格の上昇とサプライチェーンの混乱がインフレの主な要因となる一方、米国では堅調な国内の需要もその要因となっています。特に、堅調な家計の貯蓄とペントアップ需要が、米国の労働市場のひっ迫につながり、賃金上昇に圧力をかけています。運用チームでは、地域毎の様々なインフレ要因を引き続き注意深く精査してまいります。

世界規模の異例の金融緩和局面は終わり、世界的な金融引き締め局面が続いています。こうした金融政策の転換は現地通貨建て資産に様々な影響を及ぼします。アジアのように、すでに高い金利を維持するかもしくはラテンアメリカのように利上げを先駆けて実施することにより金融引き締め局面で先行している一部の新興国は、世界的な金融引き締め局面では有利な立場にあります。他の国は持続的なインフレやファンダメンタルズの悪化に脆弱であるとみられ、金融引き締め局面で遅れを取る可能性があります。国によりインフレ要因は一樣ではなく、各国間で金融政策の乖離は広がると予想しています。一部の中央銀行が他の国の中央銀行に先行して金融引き締めを進める中、金融政策の乖離はバリュエーションの面から投資機会をもたらす可能性があります。

#### ○運用方針

全体として、ポートフォリオのデュレーションを短めに維持します。引き続き主要先進国以外の一部の現地通貨建てソブリン債に注目してまいります。一部の新興国のソブリン債利回りは低利回りもしくはマイナス利回りの先進国ソブリン債の利回り水準を大きく上回っています。また、ビジネス活動が活発で、健全な財政政策が期待できる国 (特にアジア諸国) の通貨にも注目しています。国際商品価格の上昇や積極的な利上げ姿勢も米州の一部の通貨に追い風となると考えています。

### (投資対象ファンド：日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定))

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。



○ 1 万口当たりの費用明細

(2021年12月21日～2022年6月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 50	% 0.535	(a) 信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(10)	(0.110)	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(38)	(0.411)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
( 受 託 会 社 )	( 1 )	(0.014)	ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.015	(b) その他費用 = $\frac{[期中のその他費用]}{[期中の平均受益権口数]}$
( 監 査 費 用 )	( 1 )	(0.015)	その他費用 ・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	51	0.550	
期中の平均基準価額は、9,348円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては交付運用報告書の「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

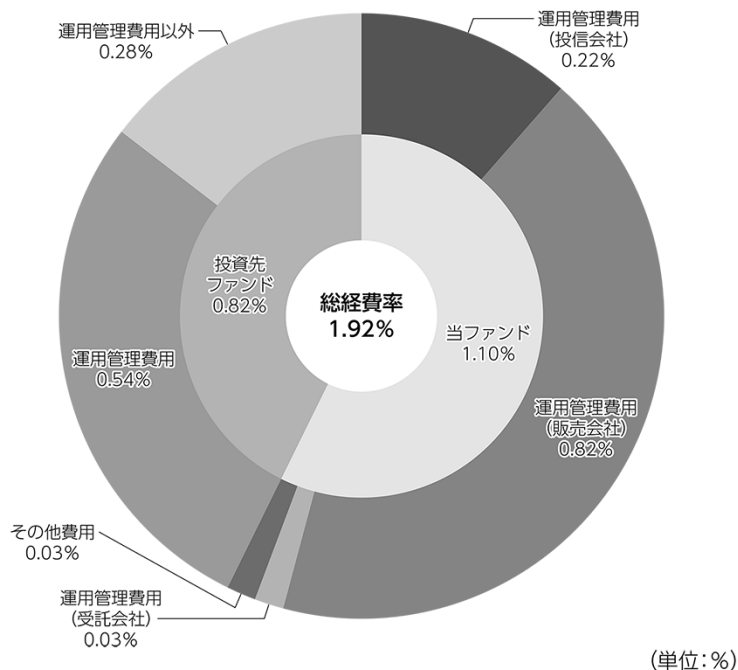
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## (参考情報)

### ○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.92%です。



総経費率(①+②+③)	1.92
①当ファンドの費用の比率	1.10
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.54
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.28

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2021年12月21日～2022年6月20日)

### 投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国 (邦貨建)	フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ-テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンドClass I (Mdis) JPY-H1	45,352	28,902	134,662	87,400

(注) 金額は受渡し代金です。

(注) 単位未満は切捨てです。

## ○利害関係人との取引状況等

(2021年12月21日～2022年6月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年12月21日～2022年6月20日)

該当事項はございません。

## ○組入資産の明細

(2022年6月20日現在)

### ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘 柄		期首(前期末)	当 期 末		
		口 数	口 数	評 価 額	比 率
日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)		2,703,566	2,703,566	2,845	0.3
フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ-テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンドClass I (Mdis) JPY-H1		1,654,037	1,564,727	939,164	98.7
合 計		4,357,603	4,268,293	942,010	99.0

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 単位未満は切捨てです。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○投資信託財産の構成

(2022年6月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 2,845	% 0.3
投資証券	939,164	98.0
コール・ローン等、その他	16,642	1.7
投資信託財産総額	958,651	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨てです。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年6月20日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	958,651,818
コール・ローン等	16,641,727
投資信託受益証券(評価額)	2,845,232
投資証券(評価額)	939,164,859
(B) 負債	6,898,469
未払収益分配金	1,080,706
未払解約金	57,811
未払信託報酬	5,599,755
未払利息	37
その他未払費用	160,160
(C) 純資産総額(A-B)	951,753,349
元本	1,080,706,444
次期繰越損益金	△ 128,953,095
(D) 受益権総口数	1,080,706,444口
1万円当たり基準価額(C/D)	8,807円

○損益の状況 (2021年12月21日～2022年6月20日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	28,039,944
受取配当金	28,046,333
受取利息	120
支払利息	△ 6,509
(B) 有価証券売買損益	△ 77,709,988
売買益	964,746
売買損	△ 78,674,734
(C) 信託報酬等	△ 5,759,915
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 55,429,959
(E) 前期繰越損益金	△162,174,417
(F) 追加信託差損益金	89,731,987
(配当等相当額)	( 178,537,403)
(売買損益相当額)	(△ 88,805,416)
(G) 計(D+E+F)	△127,872,389
(H) 収益分配金	△ 1,080,706
次期繰越損益金(G+H)	△128,953,095
追加信託差損益金	89,731,987
(配当等相当額)	( 178,537,403)
(売買損益相当額)	(△ 88,805,416)
分配準備積立金	328,062,319
繰越損益金	△546,747,401

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
(注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。  
(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<注記事項> (当運用報告書作成時点では監査未了です。)

(貸借対照表関係)

- (1) 期首元本額は1,185,843,059円、期中追加設定元本額は10,319,398円、期中一部解約元本額は115,456,013円です。  
(2) 貸借対照表上の純資産総額が元本総額を下回っており、その差額は128,953,095円です。  
(3) 期末における1口当たり純資産額は0.8807円です。

(分配金の計算過程)

計算期間末における解約に伴う当期純損益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(22,280,029円)、解約に伴う当期純損益金額分配後の有価証券売買等損益から、費用を控除し繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(178,537,403円)及び分配準備積立金(306,862,996円)より、分配対象収益は、507,680,428円(1万円当たり4,697円)であり、うち1,080,706円(1万円当たり10円)を分配金額としております。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金 (税込み)	10円
------------------	-----

◇分配金の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

## テンブルトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース

### ○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額		期 騰 落 率	投 資 信 託 券 率 組 入 比	純 資 産 額
		税 分 込 配 金	騰 落 率			
19期(2020年6月22日)	円 14,006		円 10	% △5.5	% 99.0	百万円 3,915
20期(2020年12月21日)	13,514		10	△3.4	98.9	3,466
21期(2021年6月21日)	14,017		10	3.8	98.6	3,300
22期(2021年12月20日)	14,006		10	△0.0	97.5	3,117
23期(2022年6月20日)	15,757		10	12.6	99.2	3,137

(注) 基準価額（1万円当たり）の期中騰落率は分配金込みです。

(注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

(注) 投資信託証券組入比率は、純資産総額に対する比率です。

### ○当期中の基準価額の推移

年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 券 率 組 入 比
		騰 落 率	騰 落 率	
(期 首) 2021年12月20日	円 14,006	% -	% 97.5	
12月末	14,228	1.6	98.3	
2022年1月末	14,178	1.2	99.2	
2月末	14,384	2.7	99.1	
3月末	15,321	9.4	98.8	
4月末	15,618	11.5	97.9	
5月末	15,547	11.0	99.1	
(期 末) 2022年6月20日	15,767	12.6	99.2	

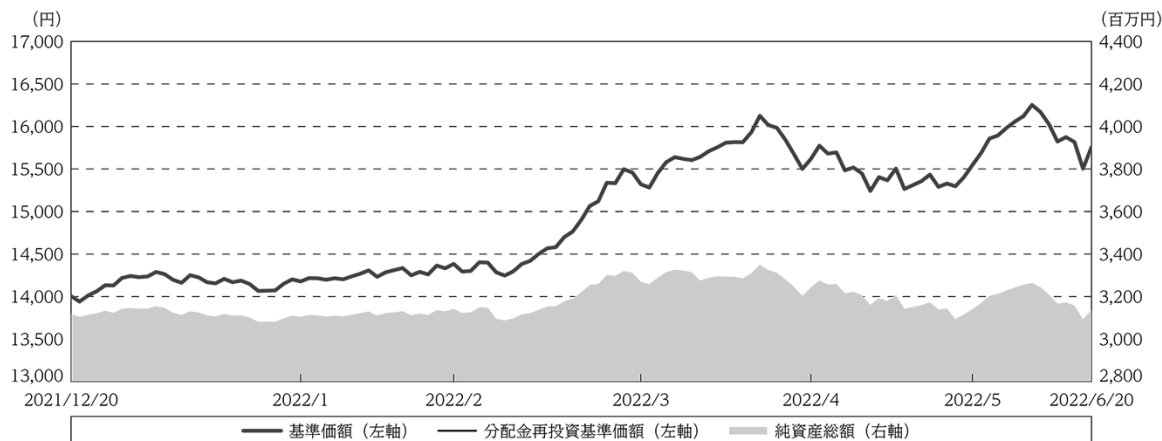
(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○運用経過

(2021年12月21日～2022年6月20日)

### 期中の基準価額等の推移



期 首：14,006円

期 末：15,757円 (既払分配金(税込み):10円)

騰落率： 12.6% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2021年12月20日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定していません。

### ○基準価額の主な変動要因

主な投資対象ファンドである「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンダーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)の円建て外国投資証券「Class I (Mdis) JPY」(以下、JPYクラスといいます。)の分配金再投資基準価額が上昇したことから、当ファンドの分配金再投資基準価額も上昇しました。詳しくは後掲の「■投資環境」をご参照ください。



なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からのインカムゲイン
- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等の価格変動
- ・投資を行っている先進国通貨および新興国通貨の対米ドルの価格変動

## 投資環境

### (債券市場)

当期の米国債券市場は、利回りが上昇（価格は下落）しました。期の前半は、新型コロナウイルスの新たな変異株（オミクロン株）に対する懸念により、利回りは低下して始まりましたが、その後は、オミクロン株の感染拡大に対する過度の警戒感が和らいだことや、米連邦準備制度理事会（FRB）による金融政策の正常化が予想以上に早く進むとの見方が広がったことなどから、利回りは上昇しました。期の半ばは、FRBによる金融政策の正常化観測を背景に、利回りの上昇が続きましたが、ウクライナ情勢が悪化し、投資家のリスク回避姿勢が意識されると、利回りは低下しました。その後は、原油価格が急騰し、インフレ圧力が増すとの警戒感が強まったことや、FRBが0.25%の利上げを決定したことなどから、利回りは上昇しました。期の後半は、FRBによる0.5%幅の追加利上げを織り込む形で、利回りは上昇しました。その後、FRBによる積極的な金融引き締めによる米国景気への影響が懸念され、株式相場が下落基調となったことから、利回りは低下しましたが、引き続きFRBの積極的な利上げ観測により、利回りは上昇しました。

当期の欧州債券市場は、利回りが上昇（価格は下落）しました。期の前半は、オミクロン株の感染拡大に対する過度の警戒感が和らいだことや、欧州エネルギー市場における天然ガス価格の上昇を背景にインフレの長期化観測が広がったことなどから、利回りは上昇しました。期の半ばは、欧州中央銀行（ECB）が金融政策の正常化を想定より早く進めるとの見方が広がったことから、利回りは上昇しましたが、ウクライナ問題を巡り、欧米によるロシアへの制裁強化により欧州経済への影響が懸念されると、低下しました。その後は、原油価格が急騰し、インフレへの警戒感が高まったことや、ECBが量的緩和の縮小を加速する方針を発表したことなどを受けて、利回りは上昇しました。期の後半は、ECBが金融政策の正常化を進めるとの見方が根強い中、利回りの上昇が続きしました。その後、当期末にかけては、ウクライナ紛争の長期化による欧州景気への影響が懸念されたことなどから、利回りが一進一退となる局面も見られましたが、ECBが量的緩和措置である資産購入プログラムを2022年7月に終了する一方、同月から利上げを開始する方針を示したことなどから、利回りは再び上昇しました。

新興国債券の利回りは、インフレ懸念などを背景に概ね上昇しました。

### (外国為替市場)

当期の米ドル・円相場は、米ドル高・円安となりました。期の前半は、一進一退の展開となりました。新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大への警戒感から米国株式相場が軟調となる場面で米ドルは対円で上値の重い展開となりました。一方、FRBによる金融政策の正常化が予想以上に早く進むとの見方が広がったことは、米ドル買い・円売りを促す要因となりました。期の半ばに入ってから、一進一退の展開が続きましたが、ロシアによるウクライナ侵攻を受けた原油高でインフレ懸念が強まり、米国国債利回りが上昇すると、日米金利差の拡大に伴い、米ドル買い・円売りが優勢となりました。期の後半は、FRBが金融引き締め

# FRANKLIN TEMPLETON®

ペースを加速するとの観測が広がった一方で、日銀が金融緩和策を維持する姿勢を継続していることから、日米の金融政策の方向性の違いが意識される中、米ドル買い・円売りが強まりました。その後は、急速な円安に対する警戒感や米国国債利回りの低下などを受けて、米ドルは対円で伸び悩みとなる場面もみられましたが、再びFRBの積極的な金融政策に焦点があたったことから、米ドルは堅調に推移しました。

当期のユーロ・円相場は、ユーロ高・円安となりました。期の前半は、新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大に対する過度の警戒感が後退すると、ユーロは対円で底堅い動きとなりました。また、ECB総裁がインフレへの警戒感を示し、ECBによる2022年内の利上げ開始観測が浮上したことから、ユーロ買い・円売りが優勢となりました。期の半ば、ウクライナ情勢の悪化を受けて欧州経済への影響が懸念されたことなどから、ユーロは対円で下落しましたが、ウクライナとロシアの停戦交渉に対する進展期待が高まると、反発しました。期の後半は、ECBによる金融政策の正常化が進むとの観測が根強い中、金融緩和を継続する日銀との政策方向の違いを意識したユーロ買い・円売りが強まりました。その後は、新型コロナウイルスの感染が拡大する中国でロックダウン（都市封鎖）が拡大し、世界経済の減速につながるとの懸念が広がったことから、ユーロ売り・円買いが優勢となりました。しかし、ECBが量的緩和措置である資産購入プログラムを2022年7月に終了する一方、同月から利上げを開始する方針を示したことなどから、国債利回りが上昇する中、ユーロ高・円安が進みました。

新興国通貨の動きは、対円で概ね堅調となりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(テンプレート世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース)

「テンプレート世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレート・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」受益証券への投資も行いました。

(投資対象ファンド：テンプレート・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

<国・地域配分>

主な国・地域別配分については、韓国、インドネシア、ブラジル、ノルウェー、スウェーデンなどへ投資しました。

<通貨別配分>

主な通貨別配分については、韓国ウォン、米ドル、中国元などを買い建てとする一方で、ユーロなどを売り建てしました。

## <信用格付別配分>

主な配分については、投資適格債を中心に、非投資適格債も一部組み入れました。

(2022年5月末時点)

## (投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し信託財産の安定的な成長を目指して安定運用を行いました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載していません。

## 分配金

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して次表の通りとさせていただきます。なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第23期
	2021年12月21日～ 2022年6月20日
当期分配金	10
(対基準価額比率)	0.063%
当期の収益	10
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	9,538

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○今後の運用方針

### (テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」および「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」へ投資を行います。「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

### (投資対象ファンド：テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

#### ○市場見通し（2022年5月末時点）

インフレの要因は地域毎に異なる中、年内は概ね過去の平均水準を上回ると予想しています。欧州では、エネルギー価格の上昇とサプライチェーンの混乱がインフレの主な要因となる一方、米国では堅調な国内の需要もその要因となっています。特に、堅調な家計の貯蓄とペントアップ需要が、米国の労働市場のひっ迫につながり、賃金上昇に圧力をかけています。運用チームでは、地域毎の様々なインフレ要因を引き続き注意深く精査してまいります。

世界規模の異例の金融緩和局面は終わり、世界的な金融引き締め局面が続いています。こうした金融政策の転換は現地通貨建て資産に様々な影響を及ぼします。アジアのように、すでに高い金利を維持するかもしくはラテンアメリカのように利上げを先駆けて実施することにより金融引き締め局面で先行している一部の新興国は、世界的な金融引き締め局面では有利な立場にあります。他の国は持続的なインフレやファンダメンタルズの悪化に脆弱であるとみられ、金融引き締め局面で遅れを取る可能性があります。国によりインフレ要因は一樣ではなく、各国間で金融政策の乖離は広がると予想しています。一部の中央銀行が他の国の中央銀行に先行して金融引き締めを進める中、金融政策の乖離はバリュエーションの面から投資機会をもたらす可能性があります。

#### ○運用方針

全体として、ポートフォリオのデュレーションを短めに維持します。引き続き主要先進国以外の一部の現地通貨建てソブリン債に注目してまいります。一部の新興国のソブリン債利回りは低利回りもしくはマイナス利回りの先進国ソブリン債の利回り水準を大きく上回っています。また、ビジネス活動が活発で、健全な財政政策が期待できる国（特にアジア諸国）の通貨にも注目しています。国際商品価格の上昇や積極的な利上げ姿勢も米州の一部の通貨に追い風となると考えています。

### (投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2021年12月21日～2022年6月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 80	% 0.535	(a)信託報酬＝〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(16)	(0.110)	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(61)	(0.411)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
( 受 託 会 社 )	( 2 )	(0.014)	ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.004	(b)その他費用＝ $\frac{〔期中のその他費用〕}{〔期中の平均受益権口数〕}$
( 監 査 費 用 )	( 1 )	(0.004)	その他費用 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	81	0.539	
期中の平均基準価額は、14,879円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては交付運用報告書の「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

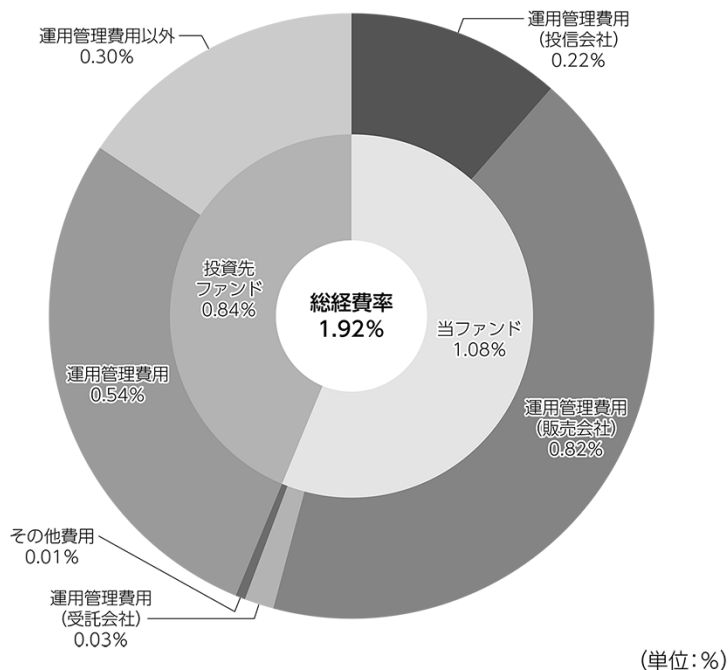
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## (参考情報)

### ○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.92%です。



総経費率(①+②+③)	1.92
①当ファンドの費用の比率	1.08
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.54
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.30

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2021年12月21日～2022年6月20日)

### 投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国 (邦貨建)	フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ-テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンドClass I (Mdis) JPY	84,105	85,687	309,800	322,100

(注) 金額は受渡し代金です。

(注) 単位未満は切捨てです。

## ○利害関係人との取引状況等

(2021年12月21日～2022年6月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年12月21日～2022年6月20日)

該当事項はございません。

## ○組入資産の明細

(2022年6月20日現在)

### ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘 柄		期首(前期末)	当 期 末		
		口 数	口 数	評 価 額	比 率
日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)		11,202,737	11,202,737	11,789	0.4
フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ-テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンドClass I (Mdis) JPY		3,154,720	2,929,024	3,100,782	98.8
合 計		14,357,457	14,131,761	3,112,572	99.2

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 単位未満は切捨てです。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○投資信託財産の構成

(2022年6月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 11,789	% 0.4
投資証券	3,100,782	97.8
コール・ローン等、その他	56,478	1.8
投資信託財産総額	3,169,049	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨てです。



○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年6月20日現在)

項 目	当 期 末	円
(A) 資産	3,169,049,183	
コール・ローン等	56,476,483	
投資信託受益証券(評価額)	11,789,760	
投資証券(評価額)	3,100,782,940	
(B) 負債	31,422,316	
未払収益分配金	1,991,317	
未払解約金	12,302,866	
未払信託報酬	17,000,788	
未払利息	127	
その他未払費用	127,218	
(C) 純資産総額(A-B)	3,137,626,867	
元本	1,991,317,559	
次期繰越損益金	1,146,309,308	
(D) 受益権総口数	1,991,317,559口	
1万円当たり基準価額(C/D)	15,757円	

○損益の状況 (2021年12月21日～2022年6月20日)

項 目	当 期	円
(A) 配当等収益	80,956,939	
受取配当金	80,976,380	
受取利息	343	
支払利息	△ 19,784	
(B) 有価証券売買損益	282,067,867	
売買益	309,399,349	
売買損	△ 27,331,482	
(C) 信託報酬等	△ 17,128,006	
(D) 当期損益金(A+B+C)	345,896,800	
(E) 前期繰越損益金	△ 69,425,072	
(F) 追加信託差損益金	871,828,897	
(配当等相当額)	( 763,214,783)	
(売買損益相当額)	( 108,614,114)	
(G) 計(D+E+F)	1,148,300,625	
(H) 収益分配金	△ 1,991,317	
次期繰越損益金(G+H)	1,146,309,308	
追加信託差損益金	871,828,897	
(配当等相当額)	( 763,214,783)	
(売買損益相当額)	( 108,614,114)	
分配準備積立金	1,136,118,304	
繰越損益金	△ 861,637,893	

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
(注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。  
(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<注記事項> (当運用報告書作成時点では監査未了です。)

(貸借対照表関係)

- (1) 期首元本額2,225,978,043円、期中追加設定元本額は45,934,436円、期中一部解約元本額は280,594,920円です。  
(2) 期末における1口当たり純資産額は1,5757円です。

(分配金の計算過程)

計算期間末における解約に伴う当期純損益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(77,137,394円)、解約に伴う当期純損益金額分配後の有価証券売買等損益から、費用を控除し繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(763,214,783円)及び分配準備積立金(1,060,972,227円)より、分配対象収益は、1,901,324,404円(1万円当たり9,548円)であり、うち1,991,317円(1万円当たり10円)を分配金額としております。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金 (税込み)	10円
------------------	-----

◇分配金の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

テンブルトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース

○最近30期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			投 資 信 託 券 率 組 入 比	純 資 産 額	
		税 分	込 配	み 金 期 騰 落			中 率
	円		円		%	百万円	
108期(2020年1月20日)	11,748		50		1.2	98.7	252
109期(2020年2月20日)	11,768		50		0.6	98.7	252
110期(2020年3月23日)	11,188		50		△4.5	99.0	233
111期(2020年4月20日)	10,858		50		△2.5	98.8	225
112期(2020年5月20日)	10,836		50		0.3	98.7	225
113期(2020年6月22日)	10,738		50		△0.4	98.9	206
114期(2020年7月20日)	10,650		50		△0.4	99.0	204
115期(2020年8月20日)	10,481		25		△1.4	98.6	199
116期(2020年9月23日)	10,351		25		△1.0	98.9	190
117期(2020年10月20日)	10,341		25		0.1	98.7	190
118期(2020年11月20日)	10,259		25		△0.6	98.2	162
119期(2020年12月21日)	10,197		25		△0.4	98.0	147
120期(2021年1月20日)	10,217		25		0.4	98.3	147
121期(2021年2月22日)	10,332		25		1.4	98.5	149
122期(2021年3月22日)	10,437		25		1.3	98.8	150
123期(2021年4月20日)	10,380		25		△0.3	98.4	150
124期(2021年5月20日)	10,396		25		0.4	97.4	144
125期(2021年6月21日)	10,429		25		0.6	97.8	144
126期(2021年7月20日)	10,211		25		△1.9	97.8	141
127期(2021年8月20日)	10,142		25		△0.4	98.5	140
128期(2021年9月21日)	10,125		25		0.1	98.8	140
129期(2021年10月20日)	10,514		25		4.1	97.9	145
130期(2021年11月22日)	10,329		25		△1.5	98.9	141
131期(2021年12月20日)	10,275		25		△0.3	98.0	140
132期(2022年1月20日)	10,390		25		1.4	98.1	122
133期(2022年2月21日)	10,441		25		0.7	98.3	122
134期(2022年3月22日)	10,860		25		4.3	98.5	126
135期(2022年4月20日)	11,718		25		8.1	98.2	131
136期(2022年5月20日)	11,112		25		△5.0	97.5	125
137期(2022年6月20日)	11,412		25		2.9	97.7	129

(注) 基準価額(1万円当たり)の期中騰落率は分配金込みです。

(注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定していません。

(注) 投資信託証券組入比率は、純資産総額に対する比率です。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○当作成期中の基準価額の推移

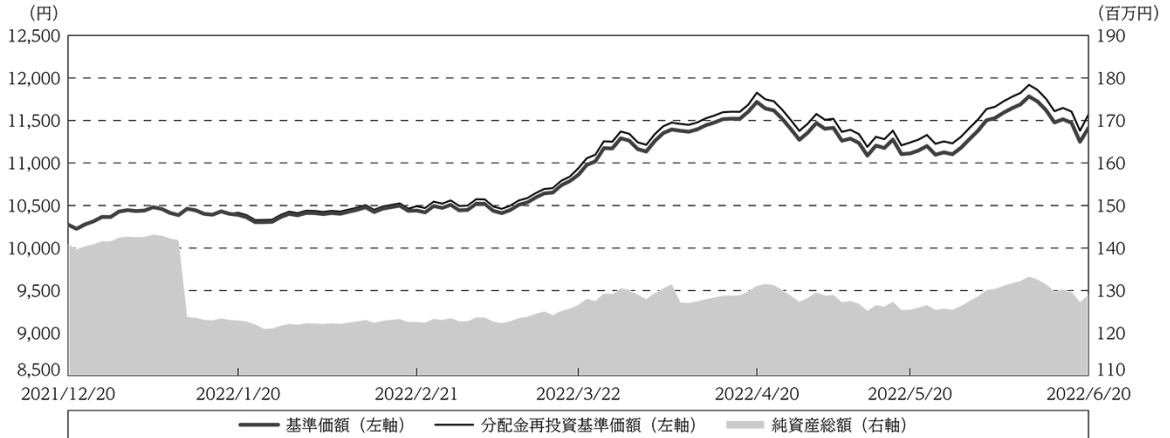
決 算 期	年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 証 入 比 率
			騰 落 率	率	
第132期	(期 首) 2021年12月20日	円		%	%
		10,275		—	98.0
	12月末	10,435		1.6	97.4
第133期	(期 末) 2022年1月20日	10,415		1.4	98.1
	(期 首) 2022年1月20日	10,390		—	98.1
	1月末	10,385		△0.0	98.9
第134期	(期 末) 2022年2月21日	10,466		0.7	98.3
	(期 首) 2022年2月21日	10,441		—	98.3
	2月末	10,509		0.7	98.3
第135期	(期 末) 2022年3月22日	10,885		4.3	98.5
	(期 首) 2022年3月22日	10,860		—	98.5
	3月末	11,163		2.8	98.6
第136期	(期 末) 2022年4月20日	11,743		8.1	98.2
	(期 首) 2022年4月20日	11,718		—	98.2
	4月末	11,358		△3.1	97.2
第137期	(期 末) 2022年5月20日	11,137		△5.0	97.5
	(期 首) 2022年5月20日	11,112		—	97.5
	5月末	11,281		1.5	97.5
	(期 末) 2022年6月20日	11,437		2.9	97.7

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

○運用経過

(2021年12月21日～2022年6月20日)

作成期間中の基準価額等の推移



第132期首：10,275円

第137期末：11,412円 (既払分配金(税込み)：150円)

騰落率：12.6% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2021年12月20日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定していません。

○基準価額の主な変動要因

主な投資対象ファンドである「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)の円建て外国投資証券「Class I (Mdis) JPY」(以下、JPYクラスといいます。)の分配金再投資基準価額が上昇したことから、当ファンドの分配金再投資基準価額も上昇しました。詳しくは後掲の「■投資環境」をご参照ください。

# FRANKLIN TEMPLETON®

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からのインカムゲイン
- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等の価格変動
- ・投資を行っている先進国通貨および新興国通貨の対米ドルの価格変動

## 投資環境

### (債券市場)

当作成期の米国債券市場は、利回りが上昇（価格は下落）しました。期の前半は、新型コロナウイルスの新たな変異株（オミクロン株）に対する懸念により、利回りは低下して始まりましたが、その後は、オミクロン株の感染拡大に対する過度の警戒感が和らいだことや、米連邦準備制度理事会（FRB）による金融政策の正常化が予想以上に早く進むとの見方が広がったことなどから、利回りは上昇しました。期の半ばは、FRBによる金融政策の正常化観測を背景に、利回りの上昇が続きましたが、ウクライナ情勢が悪化し、投資家のリスク回避姿勢が意識されると、利回りは低下しました。その後は、原油価格が急騰し、インフレ圧力が増すと警戒感が強まったことや、FRBが0.25%の利上げを決定したことなどから、利回りは上昇しました。期の後半は、FRBによる0.5%幅の追加利上げを織り込む形で、利回りは上昇しました。その後、FRBによる積極的な金融引き締めによる米国景気への影響が懸念され、株式相場が下落基調となったことから、利回りは低下しましたが、引き続きFRBの積極的な利上げ観測により、利回りは上昇しました。

当作成期の欧州債券市場は、利回りが上昇（価格は下落）しました。期の前半は、オミクロン株の感染拡大に対する過度の警戒感が和らいだことや、欧州エネルギー市場における天然ガス価格の上昇を背景にインフレの長期化観測が広がったことなどから、利回りは上昇しました。期の半ばは、欧州中央銀行（ECB）が金融政策の正常化を想定より早く進めるとの見方が広がったことから、利回りは上昇しましたが、ウクライナ問題を巡り、欧米によるロシアへの制裁強化により欧州経済への影響が懸念されると、低下しました。その後は、原油価格が急騰し、インフレへの警戒感が高まったことや、ECBが量的緩和の縮小を加速する方針を発表したことなどを受けて、利回りは上昇しました。期の後半は、ECBが金融政策の正常化を進めるとの見方が根強い中、利回りの上昇が続きました。その後、当作成期末にかけては、ウクライナ紛争の長期化による欧州景気への影響が懸念されたことなどから、利回りが一進一退となる局面も見られましたが、ECBが量的緩和措置である資産購入プログラムを2022年7月に終了する一方、同月から利上げを開始する方針を示したことなどから、利回りは再び上昇しました。

新興国債券の利回りは、インフレ懸念などを背景に概ね上昇しました。

### (外国為替市場)

当作成期の米ドル・円相場は、米ドル高・円安となりました。期の前半は、一進一退の展開となりました。新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大への警戒感から米国株式相場が軟調となる場面で米ドルは対円で上値の重い展開となりました。一方、FRBによる金融政策の正常化が予想以上に早く進むとの見方が広がったことは、米ドル買い・円売りを促す要因となりました。期の半ばに入ってから、一進一退の展開が続きましたが、ロシアによるウクライナ侵攻を受けた原油高でインフレ懸念が強まり、米国国債利回りが上昇すると、日米金利差の拡大に伴い、米ドル買い・円売りが優勢となりました。期の後半は、FRBが金融引き締

めペースを加速するとの観測が広がった一方で、日銀が金融緩和策を維持する姿勢を継続していることから、日米の金融政策の方向性の違いが意識される中、米ドル買い・円売りが強まりました。その後は、急速な円安に対する警戒感や米国国債利回りの低下などを受けて、米ドルは対円で伸び悩みとなる場面もみられました。再びFRBの積極的な金融政策に焦点があたったことから、米ドルは堅調に推移しました。

当作成期のユーロ・円相場は、ユーロ高・円安となりました。期の前半は、新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大に対する過度の警戒感が後退すると、ユーロは対円で底堅い動きとなりました。また、ECB総裁がインフレへの警戒感を示し、ECBによる2022年内の利上げ開始観測が浮上したことから、ユーロ買い・円売りが優勢となりました。期の半ば、ウクライナ情勢の悪化を受けて欧州経済への影響が懸念されたことなどから、ユーロは対円で下落しましたが、ウクライナとロシアの停戦交渉に対する進展期待が高まると、反発しました。期の後半は、ECBによる金融政策の正常化が進むとの観測が根強い中、金融緩和を継続する日銀との政策方向の違いを意識したユーロ買い・円売りが強まりました。その後は、新型コロナウイルスの感染が拡大する中国でロックダウン（都市封鎖）が拡大し、世界経済の減速につながるなどの懸念が広がったことから、ユーロ売り・円買いが優勢となりました。しかし、ECBが量的緩和措置である資産購入プログラムを2022年7月に終了する一方、同月から利上げを開始する方針を示したことなどから、国債利回りが上昇する中、ユーロ高・円安が進みました。

新興国通貨の動きは、対円で概ね堅調となりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース)

「テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」受益証券への投資も行いました。

(投資対象ファンド：テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

<国・地域配分>

主な国・地域別配分については、韓国、インドネシア、ブラジル、ノルウェー、スウェーデンなどへ投資しました。

<通貨別配分>

主な通貨別配分については、韓国ウォン、米ドル、中国元などを買い建てとする一方で、ユーロなどを売り建てしました。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## <信用格付別配分>

主な配分については、投資適格債を中心に、非投資適格債も一部組み入れました。

(2022年5月末時点)

## (投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し信託財産の安定的な成長を目指して安定運用を行いました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

## 分配金

当作成期の収益分配は次表の通りです。第132期から第137期について、いずれも配当等収益に加え、基準価額の水準、市況動向等を勘案して決定いたしました。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第132期	第133期	第134期	第135期	第136期	第137期
	2021年12月21日～ 2022年1月20日	2022年1月21日～ 2022年2月21日	2022年2月22日～ 2022年3月22日	2022年3月23日～ 2022年4月20日	2022年4月21日～ 2022年5月20日	2022年5月21日～ 2022年6月20日
当期分配金 (対基準価額比率)	25 0.240%	25 0.239%	25 0.230%	25 0.213%	25 0.224%	25 0.219%
当期の収益	25	25	25	25	25	25
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	6,866	6,878	6,892	6,916	6,943	6,968

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。



## ○今後の運用方針

### (テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」および「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」へ投資を行います。「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

### (投資対象ファンド：テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

#### ○市場見通し（2022年5月末時点）

インフレの要因は地域毎に異なる中、年内は概ね過去の平均水準を上回ると予想しています。欧州では、エネルギー価格の上昇とサプライチェーンの混乱がインフレの主な要因となる一方、米国では堅調な国内の需要もその要因となっています。特に、堅調な家計の貯蓄とペントアップ需要が、米国の労働市場のひっ迫につながり、賃金上昇に圧力をかけています。運用チームでは、地域毎の様々なインフレ要因を引き続き注意深く精査してまいります。

世界規模の異例の金融緩和局面は終わり、世界的な金融引き締め局面が続いています。こうした金融政策の転換は現地通貨建て資産に様々な影響を及ぼします。アジアのように、すでに高い金利を維持するかもしくはラテンアメリカのように利上げを先駆けて実施することにより金融引き締め局面で先行している一部の新興国は、世界的な金融引き締め局面では有利な立場にあります。他の国は持続的なインフレやファンダメンタルズの悪化に脆弱であるとみられ、金融引き締め局面で遅れを取る可能性があります。国によりインフレ要因は一樣ではなく、各国間で金融政策の乖離は広がると予想しています。一部の中央銀行が他の国の中央銀行に先行して金融引き締めを進める中、金融政策の乖離はバリュエーションの面から投資機会をもたらす可能性があります。

#### ○運用方針

全体として、ポートフォリオのデュレーションを短めに維持します。引き続き主要先進国以外の一部の現地通貨建てソブリン債に注目してまいります。一部の新興国のソブリン債利回りは低利回りもしくはマイナス利回りの先進国ソブリン債の利回り水準を大きく上回っています。また、ビジネス活動が活発で、健全な財政政策が期待できる国（特にアジア諸国）の通貨にも注目しています。国際商品価格の上昇や積極的な利上げ姿勢も米州の一部の通貨に追い風となると考えています。

### (投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2021年12月21日～2022年6月20日)

項 目	第132期～第137期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 58	% 0.535	(a) 信託報酬 = [作成期間の平均基準価額] × 信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(12)	(0.110)	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(45)	(0.411)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
( 受 託 会 社 )	( 1 )	(0.014)	ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.009	(b) その他費用 = $\frac{[\text{作成期間のその他費用}]}{[\text{作成期間の平均受益権口数}]}$
( 監 査 費 用 )	( 1 )	(0.009)	その他費用 ・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	59	0.544	
作成期間の平均基準価額は、10,855円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

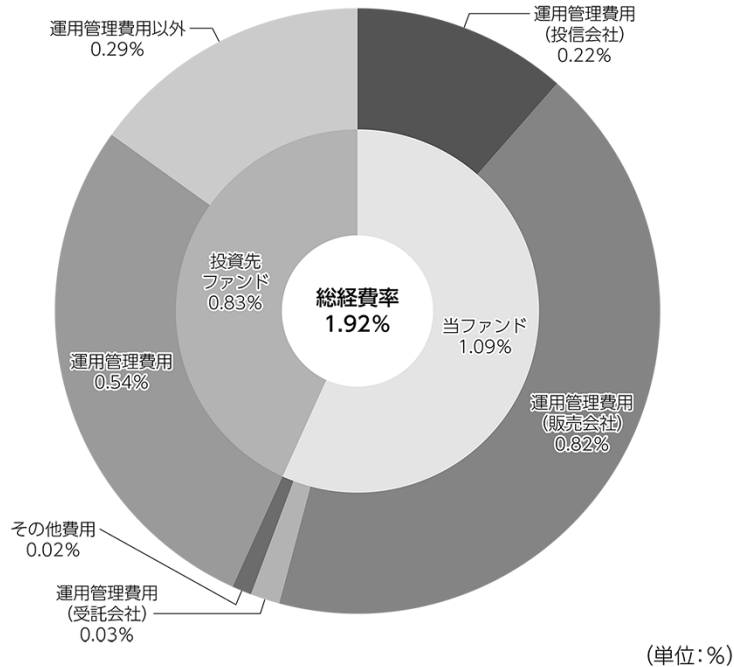
当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては交付運用報告書の「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.92%です。



総経費率(①+②+③)	1.92
①当ファンドの費用の比率	1.09
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.54
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.29

- (注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。  
 (注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。  
 (注) 各比率は、年率換算した値です。  
 (注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。  
 (注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。  
 (注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。  
 (注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○売買及び取引の状況

(2021年12月21日～2022年6月20日)

### 投資信託証券

銘		柄		第132期～第137期							
				買		付		売		付	
				口	数	金	額	口	数	金	額
外国 (邦貨建)	フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズ-テンプルトン・グローバル・ボンド・ファンドClass I (Mdis) JPY		口		千円		口		千円		
		3,366		3,425		28,073		27,800			

(注) 金額は受渡し代金です。

(注) 単位未満は切捨てです。

## ○利害関係人との取引状況等

(2021年12月21日～2022年6月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年12月21日～2022年6月20日)

該当事項はございません。

## ○組入資産の明細

(2022年6月20日現在)

### ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘		柄		第131期末		第137期末		
				口	数	口	数	評価額
			口		口		千円	%
	日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)	785,042		785,042		826		0.6
	フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズ-テンプルトン・グローバル・ボンド・ファンドClass I (Mdis) JPY	143,064		118,357		125,297		97.1
	合	928,106		903,399		126,123		97.7

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 単位未満は切捨てです。

## ○投資信託財産の構成

(2022年6月20日現在)

項 目	第137期末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	826	0.6
投資証券	125,297	96.8
コール・ローン等、その他	3,359	2.6
投資信託財産総額	129,482	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨てです。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第132期末	第133期末	第134期末	第135期末	第136期末	第137期末
	2022年1月20日現在	2022年2月21日現在	2022年3月22日現在	2022年4月20日現在	2022年5月20日現在	2022年6月20日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	123,378,067	123,037,359	127,013,857	131,511,633	125,898,314	129,482,502
コール・ローン等	2,786,979	2,445,146	2,322,327	2,722,828	3,567,681	3,358,794
投資信託受益証券(評価額)	826,727	825,864	825,785	826,099	826,256	826,178
投資証券(評価額)	119,764,361	119,766,349	123,865,745	127,962,706	121,504,377	125,297,530
(B) 負債	423,173	411,510	420,758	414,201	397,662	417,843
未払収益分配金	295,846	293,614	291,426	279,682	282,364	282,749
未払解約金	416	726	22,033	23,059	179	15,889
未払信託報酬	124,919	115,116	105,438	109,600	113,192	117,214
未払利息	8	6	5	4	7	7
その他未払費用	1,984	2,048	1,856	1,856	1,920	1,984
(C) 純資産総額(A-B)	122,954,894	122,625,849	126,593,099	131,097,432	125,500,652	129,064,659
元本	118,338,487	117,445,669	116,570,657	111,873,138	112,945,871	113,099,819
次期繰越損益金	4,616,407	5,180,180	10,022,442	19,224,294	12,554,781	15,964,840
(D) 受益権総口数	118,338,487口	117,445,669口	116,570,657口	111,873,138口	112,945,871口	113,099,819口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,390円	10,441円	10,860円	11,718円	11,112円	11,412円

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○損益の状況

項 目	第132期	第133期	第134期	第135期	第136期	第137期
	2021年12月21日～ 2022年1月20日	2022年1月21日～ 2022年2月21日	2022年2月22日～ 2022年3月22日	2022年3月23日～ 2022年4月20日	2022年4月21日～ 2022年5月20日	2022年5月21日～ 2022年6月20日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	543,588	493,372	466,628	560,153	698,483	588,240
受取配当金	543,987	493,516	466,754	560,275	698,683	588,441
受取利息	2	4	3	1	—	9
支払利息	△ 401	△ 148	△ 129	△ 123	△ 200	△ 210
(B) 有価証券売買損益	1,246,543	516,102	4,812,942	9,404,716	△ 7,151,971	3,203,876
売買益	1,390,281	516,849	4,829,466	9,636,512	5,344	3,204,652
売買損	△ 143,738	△ 747	△ 16,524	△ 231,796	△ 7,157,315	△ 776
(C) 信託報酬等	△ 126,903	△ 117,164	△ 107,294	△ 111,456	△ 115,112	△ 119,198
(D) 当期損益金 (A + B + C)	1,663,228	892,310	5,172,276	9,853,413	△ 6,568,600	3,672,918
(E) 前期繰越損益金	△34,068,029	△32,426,901	△31,568,609	△25,455,554	△15,859,134	△22,706,322
(F) 追加信託差損益金	37,317,054	37,008,385	36,710,201	35,106,117	35,264,879	35,280,993
(配当等相当額)	( 66,849,848)	( 66,357,384)	( 65,873,174)	( 63,304,090)	( 64,066,180)	( 64,175,486)
(売買損益相当額)	(△29,532,794)	(△29,348,999)	(△29,162,973)	(△28,197,973)	(△28,801,301)	(△28,894,493)
(G) 計 (D + E + F)	4,912,253	5,473,794	10,313,868	19,503,976	12,837,145	16,247,589
(H) 収益分配金	△ 295,846	△ 293,614	△ 291,426	△ 279,682	△ 282,364	△ 282,749
次期繰越損益金 (G + H)	4,616,407	5,180,180	10,022,442	19,224,294	12,554,781	15,964,840
追加信託差損益金	37,317,054	37,008,385	36,710,201	35,106,117	35,264,879	35,280,993
(配当等相当額)	( 66,849,848)	( 66,357,384)	( 65,873,174)	( 63,304,090)	( 64,066,180)	( 64,175,486)
(売買損益相当額)	(△29,532,794)	(△29,348,999)	(△29,162,973)	(△28,197,973)	(△28,801,301)	(△28,894,493)
分配準備積立金	14,401,928	14,423,865	14,471,939	14,077,963	14,358,853	14,643,462
繰越損益金	△47,102,575	△46,252,070	△41,159,698	△29,959,786	△37,068,951	△33,959,615

(注) (B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<注記事項> (当運用報告書作成時点では監査未了です。)

(貸借対照表関係)

- (1) 第132期首元本額は137,151,177円、第132～137期中追加設定元本額は2,382,258円、第132～137期中一部解約元本額は26,433,616円です。  
 (2) 1口当たり純資産額は、第132期1.0390円、第133期1.0441円、第134期1.0860円、第135期1.1718円、第136期1.1112円、第137期1.1412円です。

(損益及び剰余金計算書関係)

分配金の計算過程

- (1) 第132期 (自2021年12月21日 至2022年1月20日)

計算期間末における解約に伴う当期純損益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額 (505,048円)、解約に伴う当期純損益金額分配後の有価証券売買等損益から、費用を控除し繰越欠損金を補填した額 (0円)、信託約款に規定される収益調整金 (66,849,848円) 及び分配準備積立金 (14,192,726円) より、分配対象収益は、81,547,622円 (1万口当たり6,891円) であり、うち295,846円 (1万口当たり25円) を分配金額としております。

- (2) 第133期 (自2022年1月21日 至2022年2月21日)

計算期間末における解約に伴う当期純損益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額 (436,114円)、解約に伴う当期純損益金額分配後の有価証券売買等損益から、費用を控除し繰越欠損金を補填した額 (0円)、信託約款に規定される収益調整金 (66,357,384円) 及び分配準備積立金 (14,281,365円) より、分配対象収益は、81,074,863円 (1万口当たり6,903円) であり、うち293,614円 (1万口当たり25円) を分配金額としております。

- (3) 第134期 (自2022年2月22日 至2022年3月22日)

計算期間末における解約に伴う当期純損益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額 (457,143円)、解約に伴う当期純損益金額分配後の有価証券売買等損益から、費用を控除し繰越欠損金を補填した額 (0円)、信託約款に規定される収益調整金 (65,873,174円) 及び分配準備積立金 (14,306,222円) より、分配対象収益は、80,636,539円 (1万口当たり6,917円) であり、うち291,426円 (1万口当たり25円) を分配金額としております。

- (4) 第135期 (自2022年3月23日 至2022年4月20日)

計算期間末における解約に伴う当期純損益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額 (553,889円)、解約に伴う当期純損益金額分配後の有価証券売買等損益から、費用を控除し繰越欠損金を補填した額 (0円)、信託約款に規定される収益調整金 (63,304,090円) 及び分配準備積立金 (13,803,756円) より、分配対象収益は、77,661,735円 (1万口当たり6,941円) であり、うち279,682円 (1万口当たり25円) を分配金額としております。

- (5) 第136期 (自2022年4月21日 至2022年5月20日)

計算期間末における解約に伴う当期純損益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額 (583,371円)、解約に伴う当期純損益金額分配後の有価証券売買等損益から、費用を控除し繰越欠損金を補填した額 (0円)、信託約款に規定される収益調整金 (64,066,180円) 及び分配準備積立金 (14,057,846円) より、分配対象収益は、78,707,397円 (1万口当たり6,968円) であり、うち282,364円 (1万口当たり25円) を分配金額としております。

- (6) 第137期 (自2022年5月21日 至2022年6月20日)

計算期間末における解約に伴う当期純損益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額 (569,752円)、解約に伴う当期純損益金額分配後の有価証券売買等損益から、費用を控除し繰越欠損金を補填した額 (0円)、信託約款に規定される収益調整金 (64,175,486円) 及び分配準備積立金 (14,356,459円) より、分配対象収益は、79,101,697円 (1万口当たり6,993円) であり、うち282,749円 (1万口当たり25円) を分配金額としております。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○分配金のお知らせ

	第132期	第133期	第134期	第135期	第136期	第137期
1 万口当たり分配金 (税込み)	25円	25円	25円	25円	25円	25円

### ◇分配金の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。



## フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズー テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドの運用状況について

2021年6月30日決算

(計算期間：2020年7月1日～2021年6月30日)

テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース／為替ヘッジなしコース／毎月分配型・為替ヘッジなしコースの投資対象ファンドであるフランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドの決算は年1回（毎年6月末）です。したがって、直前の計算期末である2021年6月30日時点までの運用状況をお知らせします。

### ●当ファンドの仕組みは次の通りです。

形態	ルクセンブルク籍／外国投資法人／オープンエンド型／米ドル建て <sup>注1</sup>
投資目的	ファンドの主たる投資目的は、インカム・ゲイン、キャピタル・ゲインおよび通貨の利益を総合したトータル・リターンを最大化することです。
主な投資戦略	主として世界各国の政府または政府機関が発行する固定および変動利付債券等に投資することにより、上記の投資目的を達成することを目指します。投資制限の範囲内で社債に投資することができます。また、複数の国によって組織または援助された国際機関（国際復興開発銀行や欧州投資銀行など）が発行する債券にも投資することができます。投資目的のためにデリバティブ取引を行うことができます。デリバティブ取引には、スワップ（金利スワップ、クレジット・デフォルト・スワップ、トータル・リターン・スワップなど）、先渡しおよびクロス先渡し取引（フォワードおよびクロスフォワード）、先物取引（国債先物を含む）、オプションが含まれます。デリバティブ取引により、特定のイールドカーブ、デュレーション、通貨、信用（クレジット）のポジションが負（マイナス）となることがあります。他の証券、資産または通貨の値動きに価格が連動する証券や商品にも投資することができます。純資産総額の10%までの範囲内で債務不履行の状態にある債券を保有する場合があります。また、優先株式や債券から転換されたまたは交換された株式を保有することもあります。新興国、デリバティブ取引、非投資適格および債務不履行の状態にある債券への投資は、高いリスクを伴います。
主な投資制限	デリバティブ取引の利用はヘッジ目的に限定しません。
関係法人	運用会社：フランクリン・アドバイザーズ・インク（米国） 管理会社：フランクリン・テンプレトン・インターナショナル・サービスズ・エス・イー・アール・エル（ルクセンブルク） （業務委託先：JPモルガン・バンク・ルクセンブルク・エス・イー） 保管銀行：JPモルガン・バンク・ルクセンブルク・エス・イー（ルクセンブルク）
費用 <sup>注2</sup>	申込手数料：かかりません 運用報酬：年0.55% 管理会社報酬：年0.20% 保管銀行報酬：年0.01%～年0.14%

(注1) 限定為替ヘッジコースは、投資対象ファンドである「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド」の円建て外国投資証券「JPY限定為替ヘッジ・クラス」に投資します。  
為替ヘッジなしコースおよび毎月分配型・為替ヘッジなしコースは、投資対象ファンドである「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド」の円建て外国投資証券「JPYクラス」に投資します。

(注2) ファンドが投資を行う「JPY限定為替ヘッジ・クラス」、「JPYクラス」のものです。  
この他に監査費用、組入れ有価証券の売買委託手数料等取引に要する費用等がかかります。

# FRANKLIN TEMPLETON®

フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズー  
テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド  
損益および純資産変動計算書  
2021年6月30日に終了した計算期間

(米ドル)

<b>期首純資産</b>	<b>9,991,498,497</b>
<b>収益</b>	
債券利息（税引後）	329,779,996
その他収益	44,494,890
<b>収益合計</b>	<b>374,274,886</b>
<b>費用</b>	
運用報酬	56,188,996
管理会社報酬	17,542,033
保管銀行報酬	2,046,831
監査費用	36,220
その他費用	34,954,143
<b>費用合計</b>	<b>110,768,223</b>
関係法人からの費用戻入	(229,753)
<b>純費用合計</b>	<b>110,538,470</b>
<b>投資純収益</b>	<b>263,736,416</b>
投資有価証券売買に係る実現純損失	(97,771,613)
外国為替先渡契約に係る実現純損失	(576,718,435)
オプション契約に係る実現純損失	(127,137,128)
外国為替取引に係る実現純損失	(12,136,106)
<b>当期実現損失</b>	<b>(550,026,866)</b>

投資未実現評価益	427,319,412
外国為替先渡契約未実現評価益	106,531,875
オプション契約未実現評価益	8,557,341
外国為替取引未実現評価損	(373,605)
キャピタルゲイン課税引当	(4,627,791)
	<hr/>
<b>運用による純資産の減少額</b>	<b>(12,619,634)</b>
<b>元本異動等</b>	
追加設定額	650,760,093
解約額	(4,215,128,483)
追加設定・一部解約時の収益調整	(33,889,373)
	<hr/>
	(3,598,257,763)
分配金額	(275,951,248)
	<hr/>
<b>元本異動による純資産の減少額</b>	<b>(3,874,209,011)</b>
<b>期末純資産</b>	<b>6,104,669,852</b>
	<hr/>

# FRANKLIN TEMPLETON®

## 組入資産の明細

2021年6月30日現在

数量／額面	銘柄	国コード	取引通貨	評価額 (米ドル)	対純資産 比率 (%)
	取引所上場 譲渡可能有価証券				
	公社債				
	国債証券および地方債証券				
456,680,000,000	Korea Monetary Stabilization Bond 0.905% 04/02/2023	KOR	KRW	401,518,344	6.58
7,154,376,000	Mexican Bonos 6.5% 06/09/2022	MEX	MXN	362,443,443	5.94
2,552,100,000	Sweden Treasury Bill, Reg. S, 144A 0% 09/15/2021	SWE	SEK	298,352,530	4.89
2,417,291,000	Norway Government Bond, Reg. S, 144A 2% 05/24/2023	NOR	NOK	287,988,011	4.72
287,060,000,000	Korea Treasury Bond 0.875% 12/10/2023	KOR	KRW	250,973,491	4.11
2,026,661,000	Norway Government Bond, Reg. S, 144A 3% 03/14/2024	NOR	NOK	248,860,647	4.08
2,310,430,000,000	Indonesia Government Bond 9.5% 07/15/2023	IDN	IDR	174,883,617	2.86
174,830,000,000	Korea Treasury Bond 1.25% 12/10/2022	KOR	KRW	154,995,077	2.54
727,270,000	Brazil Letras do Tesouro Nacional 0% 07/01/2024	BRL	BRL	115,762,187	1.89
1,395,206,000,000	Indonesia Government Bond 11% 09/15/2025	IDN	IDR	115,730,894	1.90
909,270,000	Sweden Government Bond 3.5% 06/01/2022	SWE	SEK	109,997,072	1.80
7,795,000,000	India Government Bond 8.13% 09/21/2022	IND	INR	109,747,394	1.80
1,874,020,000	Mexican Bonos 8% 12/07/2023	MEX	MXN	98,579,344	1.61
104,980,000,000	Korea Monetary Stabilization Bond 0.87% 02/02/2023	KOR	KRW	92,385,185	1.51
96,310,000,000	Korea Monetary Stabilization Bond 1.285% 02/02/2022	KOR	KRW	85,435,550	1.40
693,181,000	Norway Government Bond, Reg. S, 144A 1.75% 03/13/2025	NOR	NOK	82,710,314	1.35
460,080,000	Ghana Government Bond 19% 11/02/2026	GHA	GHS	80,518,750	1.32
434,920,000	Ghana Government Bond 19.75% 03/15/2032	GHA	GHS	76,654,383	1.26
247,187,000,000	Colombia Government Bond 10% 07/24/2024	COL	COP	75,130,547	1.23
1,043,402,000,000	Indonesia Government Bond 5.625% 05/15/2023	IDN	IDR	73,707,356	1.21
911,645,000,000	Indonesia Government Bond 8.375% 03/15/2024	IDN	IDR	68,767,583	1.13
10,787,153,497	Argentina Treasury BONCER, FRN 1.722% 03/18/2022	ARG	ARS	64,015,824	1.05
899,682,000,000	Indonesia Government Bond 5.5% 04/15/2026	IDN	IDR	62,351,065	1.02
3,512,000,000	India Government Bond 7.59% 01/11/2026	IND	INR	50,407,840	0.83
864,650,000	Mexican Bonos 10% 12/05/2024	MEX	MXN	48,469,257	0.79
8,328,269,194	Argentina Treasury BONCER, FRN 2.001% 03/25/2023	ARG	ARS	47,550,317	0.78
667,035,000,000	Indonesia Government Bond 7% 05/15/2022	IDN	IDR	47,445,510	0.78
7,531,278,406	Argentina Treasury BONCER, FRN 2.075% 03/25/2024	ARG	ARS	40,828,084	0.67
128,649,000,000	Colombia Government Bond 7.5% 08/26/2026	COL	COP	36,335,901	0.60
139,388,600,000	Colombia Government Bond 6% 04/28/2028	COL	COP	35,706,066	0.58
504,570,000,000	Indonesia Government Bond 8.25% 07/15/2021	IDN	IDR	34,853,799	0.57
208,180,000	Brazil Letras do Tesouro Nacional 0% 01/01/2024	BRL	BRL	34,582,567	0.57
456,738,000,000	Indonesia Government Bond 12.9% 06/15/2022	IDN	IDR	34,281,179	0.56

フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド

数量／額面	銘柄	国コード	取引通貨	評価額 (米ドル)	対純資産 比率 (%)
123,964,600,000	Colombia Government Bond 7% 05/04/2022	COL	COP	34,144,578	0.56
2,385,000,000	India Government Bond 8.79% 11/08/2021	IND	INR	32,639,976	0.53
4,910,100,000	Argentina Government Bond 18.2% 10/03/2021	ARG	ARS	27,533,016	0.45
542,110,000	Mexican Bonos 7.25% 12/09/2021	MEX	MXN	27,455,070	0.45
145,300,000	Ghana Government Bond 19.75% 03/25/2024	GHA	GHS	26,317,577	0.43
120,080,000	Brazil Notas do Tesouro Nacional 10% 01/01/2025	BRL	BRL	25,580,134	0.42
1,789,000,000	India Government Bond 8.15% 06/11/2022	IND	INR	24,965,998	0.41
483,666,000	Mexican Bonos 6.75% 03/09/2023	MEX	MXN	24,720,779	0.41
127,840,000	Ghana Government Bond 18.75% 01/24/2022	GHA	GHS	22,138,457	0.36
7,882,350,000	Argentina Government Bond 15.5% 10/17/2026	ARG	ARS	18,722,503	0.31
3,115,071,580	Argentina Government Bond 0% 04/18/2022	ARG	ARS	18,192,029	0.30
4,927,408,000	Argentina Government Bond 16% 10/17/2023	ARG	ARS	17,920,680	0.29
82,610,000	Brazil Notas do Tesouro Nacional 10% 01/01/2031	BRL	BRL	17,622,097	0.29
59,093,700,000	Colombia Government Bond 7.75% 09/18/2030	COL	COP	16,435,186	0.27
55,561,000,000	Colombia Government Bond 6.25% 11/26/2025	COL	COP	15,024,525	0.25
1,023,000,000	India Government Bond 6.84% 12/19/2022	IND	INR	14,266,836	0.23
1,066,000,000	India Government Bond 5.22% 06/15/2025	IND	INR	14,165,376	0.23
15,209,800,000	Korea Treasury Bond 1.375% 09/10/2024	KOR	KRW	13,388,196	0.22
181,396,000,000	Indonesia Treasury Bond 10.25% 07/15/2022	IDN	IDR	13,347,118	0.22
51,790,000	Brazil Notas do Tesouro Nacional 10% 01/01/2029	BRL	BRL	11,129,598	0.18
51,770,000	Brazil Notas do Tesouro Nacional 10% 01/01/2027	BRL	BRL	11,089,972	0.18
132,795,000,000	Indonesia Government Bond 11.75% 08/15/2023	IDN	IDR	10,492,545	0.17
726,000,000	India Government Bond 7.27% 04/08/2026	IND	INR	10,313,271	0.17
126,260,000,000	Indonesia Government Bond 10% 09/15/2024	IDN	IDR	9,926,568	0.16
38,217,000,000	Colombia Government Bond 5.75% 11/03/2027	COL	COP	9,759,860	0.16
121,683,000,000	Indonesia Government Bond 6.5% 06/15/2025	IDN	IDR	8,818,745	0.14
1,295,024,811	Argentina Treasury BONGER, FRN 1% 08/05/2021	ARG	ARS	7,729,171	0.13
533,900,000	India Government Bond 5.15% 11/09/2025	IND	INR	7,052,874	0.11
1,003,333,313	Argentina Government Bond, FRN 0% 02/28/2022	ARG	ARS	5,881,472	0.10
274,800,000	India Government Bond 8.2% 09/24/2025	IND	INR	4,030,376	0.07
641,673,554	Argentina Government Bond, FRN 0% 09/13/2021	ARG	ARS	3,799,736	0.06
367,385,000	Argentina Government Bond, FRN 36.104% 04/03/2022	ARG	ARS	2,105,164	0.03
4,346,000,000	Colombia Government Bond 9.85% 06/28/2027	COL	COP	1,384,363	0.02
2,728,000,000	Colombia Government Bond 4.375% 03/21/2023	COL	COP	744,686	0.01
113,886,572	Argentina Treasury BONGER, FRN 1.3% 09/20/2022	ARG	ARS	667,409	0.01
1,220,000	Ghana Government Bond 24.75% 07/19/2021	GHA	GHS	208,509	0.01
1,120,000	Ghana Government Bond 17.6% 02/20/2023	GHA	GHS	194,468	-
870,000	Ghana Government Bond 18.3% 03/02/2026	GHA	GHS	149,931	-

# FRANKLIN TEMPLETON®

数量／額面	銘柄	国コード	取引通貨	評価額 (米ドル)	対純資産 比率 (%)
250,000	Ghana Government Bond 17.6% 11/28/2022	GHA	GHS	43,346	-
				4,412,071,323	72.27
	国際機関債				
1,800,600,000	Inter-American Development Bank 7.5% 12/05/2024	SP	MXN	92,688,508	1.52
				92,688,508	1.52
	公社債計			4,504,759,831	73.79
	小計			4,504,759,831	73.79
	その他規制市場で取引される譲渡可能有価証券				
	公社債				
	国債証券および地方債証券				
33,931,800,000	Japan Treasury Bill 0% 12/20/2021	JPN	JPY	305,623,590	5.01
144,815,000	US Treasury Bill 0% 08/03/2021	USA	USD	144,809,451	2.37
113,000,000	US Treasury Bill 0% 07/06/2021	USA	USD	112,999,509	1.85
147,920,000	Singapore Treasury Bill 0% 07/16/2021	SGP	SGD	109,987,277	1.80
140,440,000	Singapore Treasury Bill 0% 08/20/2021	SGP	SGD	104,399,729	1.71
132,070,000	Singapore Treasury Bill 0% 08/24/2021	SGP	SGD	98,174,769	1.61
88,340,000	FHLB 0% 07/01/2021	USA	USD	88,340,000	1.45
8,361,900,000	Japan Treasury Bill 0% 11/22/2021	JPN	JPY	75,307,776	1.23
7,697,700,000	Japan Treasury Bill 0% 09/13/2021	JPN	JPY	69,310,093	1.13
62,000,000	US Treasury Bill 0% 07/13/2021	USA	USD	61,999,225	1.02
21,060,000	Singapore Treasury Bill 0% 08/13/2021	SGP	SGD	15,656,299	0.26
				1,186,607,718	19.44
	公社債計			1,186,607,718	19.44
	小計			1,186,607,718	19.44
	合計			5,691,367,549	93.23

## 日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定） の運用状況について

（計算期間：2020年7月23日～2021年7月26日）

「テンプレート世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース」、「テンプレート世界債券ファンド為替ヘッジなしコース」、「テンプレート世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース」が組入れを行っている投資信託「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の決算は、年1回（毎年7月22日）です。したがって、直前の計算期末である2021年7月26日時点までの運用状況をお知らせします。

### ●日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）

商品分類	追加型株式投資信託／バランス型	
信託期間	無期限	
運用方針	NOMURA-BPI短期をベンチマークとし、これを上回る投資成果をめざします。主としてマザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。	
主要投資対象	ベビーファンド	日本短期債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	マザーファンド	わが国の公社債・金融商品を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	
信託報酬率	年0.143%（税抜0.13%）	
関係法人	委託会社：三菱UFJ国際投信株式会社 受託会社：三菱UFJ信託銀行株式会社	

# FRANKLIN TEMPLETON®

## 本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	税 込 配 金		NOMURA-BPI 短期		債 券 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	純 資 産 額		
		分 配	中 率	期 騰 落	期 中 率					
	円		円		%	%	%	百万円		
10期(2017年7月24日)	10,532		0		△0.0	235.85	△0.5	97.0	—	153
11期(2018年7月23日)	10,543		0		0.1	235.65	△0.1	97.4	—	160
12期(2019年7月22日)	10,546		0		0.0	235.76	0.0	98.1	—	157
13期(2020年7月22日)	10,518		0		△0.3	235.08	△0.3	95.1	—	135
14期(2021年7月26日)	10,539		0		0.2	234.87	△0.1	97.1	—	136

(注) NOMURA-BPI 短期とは、野村証券株式会社が発表しているわが国の残存期間1年から3年の債券で構成されている債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI 総合のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。



## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		N O M U R A - B P I 短 期		債 券 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率
	円	騰 落 率		騰 落 率		
(期 首) 2020年 7月22日	10,518	—	235.08	—	95.1	—
7 月 末	10,525	0.1	235.09	0.0	92.7	—
8 月 末	10,522	0.0	234.94	△0.1	93.7	—
9 月 末	10,527	0.1	235.02	△0.0	91.7	—
10 月 末	10,527	0.1	234.97	△0.0	97.0	—
11 月 末	10,528	0.1	234.95	△0.1	97.7	—
12 月 末	10,530	0.1	234.92	△0.1	91.3	—
2021年 1 月 末	10,532	0.1	234.89	△0.1	92.1	—
2 月 末	10,526	0.1	234.83	△0.1	93.7	—
3 月 末	10,532	0.1	234.91	△0.1	95.2	—
4 月 末	10,533	0.1	234.88	△0.1	91.2	—
5 月 末	10,535	0.2	234.86	△0.1	91.7	—
6 月 末	10,535	0.2	234.81	△0.1	97.5	—
(期 末) 2021年 7月26日	10,539	0.2	234.87	△0.1	97.1	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

2020年7月23日～2021年7月26日

## 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	15	0.144	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
( 投 信 会 社 )	(12)	(0.111)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	( 1)	(0.011)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 2)	(0.022)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.003	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	15	0.147	

期中の平均基準価額は、10,530円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○組入資産の明細

(2021年7月26日現在)

## 親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
日本短期債券マザーファンド	千口 121,025	千口 120,848	千円 135,917

## ○投資信託財産の構成

(2021年7月26日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
日本短期債券マザーファンド	千円 135,917	% 99.7
コール・ローン等、その他	438	0.3
投資信託財産総額	136,355	100.0

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2021年7月26日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	136,355,896
コール・ローン等	437,385
日本短期債券マザーファンド(評価額)	135,917,939
未収入金	572
(B) 負債	100,547
未払信託報酬	98,639
その他未払費用	1,908
(C) 純資産総額(A－B)	136,255,349
元本	129,286,925
次期繰越損益金	6,968,424
(D) 受益権総口数	129,286,925口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,539円

### <注記事項>

- ①期首元本額 129,286,925円  
 期中追加設定元本額 0円  
 期中一部解約元本額 0円  
 また、1口当たり純資産額は、期末1.0539円です。

### ②分配金の計算過程

項 目	2020年7月23日～ 2021年7月26日
費用控除後の配当等収益額	289,811円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円
収益調整金額	7,672,604円
分配準備積立金額	5,591,480円
当ファンドの分配対象収益額	13,553,895円
1万口当たり収益分配対象額	1,048円
1万口当たり分配金額	－円
収益分配金金額	－円

## ○損益の状況 (2020年7月23日～2021年7月26日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 7
支払利息	△ 7
(B) 有価証券売買損益	471,542
売買益	471,554
売買損	△ 12
(C) 信託報酬等	△ 200,489
(D) 当期損益金(A+B+C)	271,046
(E) 前期繰越損益金	1,598,028
(F) 追加信託差損益金	5,099,350
(配当等相当額)	( 7,672,604)
(売買損益相当額)	(△2,573,254)
(G) 計(D+E+F)	6,968,424
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	6,968,424
追加信託差損益金	5,099,350
(配当等相当額)	( 7,672,604)
(売買損益相当額)	(△2,573,254)
分配準備積立金	5,881,291
繰越損益金	△4,012,217

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。  
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

# 日本短期債券マザーファンド

決算日2021年7月26日

（計算期間：2020年7月23日～2021年7月26日）

運用方針	わが国の公社債・金融商品を主要投資対象とし、ポートフォリオのデュレーション調整と銘柄選択による収益獲得をめざして運用を行います。ポートフォリオのデュレーションはベンチマークの平均を中心に調整します。デュレーション調整は主としてファンダメンタルズ分析に基づく中期的な金利見通しに沿って行います。銘柄選択は信用リスクと金利スプレッドを定量的・定性的に分析して行います。NOMURA-BPI短期をベンチマークとし、同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。
主要運用対象	わが国の公社債・金融商品を主要投資対象とします。
主な組入制限	外貨建資産への投資は行いません。
委託会社	三菱UFJ国際投信株式会社

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		NOMURA-BPI短期		債組入比率	債先物比率	純総資産額
	期騰落	中率	期騰落	中率			
	円	%		%	%	%	百万円
19期(2017年7月24日)	11,175	0.1	235.85	△0.5	97.3	—	2,281
20期(2018年7月23日)	11,202	0.2	235.65	△0.1	97.6	—	2,061
21期(2019年7月22日)	11,221	0.2	235.76	0.0	98.3	—	1,840
22期(2020年7月22日)	11,208	△0.1	235.08	△0.3	95.3	—	1,713
23期(2021年7月26日)	11,247	0.3	234.87	△0.1	97.3	—	1,703

(注) NOMURA-BPI短期とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の残存期間1年から3年の債券で構成されている債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI総合のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		N O M U R A - B P I 短 期		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率
	円	騰 落 率		騰 落 率		
(期 首) 2020年 7 月22日	11,208	—	235.08	—	95.3	—
7 月 末	11,216	0.1	235.09	0.0	93.0	—
8 月 末	11,214	0.1	234.94	△0.1	94.0	—
9 月 末	11,221	0.1	235.02	△0.0	91.9	—
10 月 末	11,222	0.1	234.97	△0.0	97.2	—
11 月 末	11,225	0.2	234.95	△0.1	97.9	—
12 月 末	11,228	0.2	234.92	△0.1	91.5	—
2021年 1 月 末	11,231	0.2	234.89	△0.1	92.3	—
2 月 末	11,226	0.2	234.83	△0.1	93.9	—
3 月 末	11,234	0.2	234.91	△0.1	95.5	—
4 月 末	11,237	0.3	234.88	△0.1	91.5	—
5 月 末	11,240	0.3	234.86	△0.1	91.9	—
6 月 末	11,242	0.3	234.81	△0.1	97.7	—
(期 末) 2021年 7 月26日	11,247	0.3	234.87	△0.1	97.3	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○1万口当たりの費用明細

(2020年7月23日～2021年7月26日)

該当事項はございません。

## ○組入資産の明細

(2021年7月26日現在)

## 国内公社債

## (A)国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期			末			
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	50,000	55,459	3.3	—	—	3.3	—
普通社債券	1,600,000 (1,600,000)	1,601,941 (1,601,941)	94.0 (94.0)	— (—)	— (—)	41.1 (41.1)	52.9 (52.9)
合 計	1,650,000 (1,600,000)	1,657,400 (1,601,941)	97.3 (94.0)	— (—)	— (—)	44.4 (41.1)	52.9 (52.9)

(注) ( )内は非上場債で内書き。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(注) 現先の組み入れがある場合、現先は国債証券に含めて記載。

# FRANKLIN TEMPLETON®

## (B) 国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄	当 期 末			
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
<b>国債証券</b>	%	千円	千円	
第87回利付国債 (20年)	2.2	50,000	55,459	2026/3/20
小 計		50,000	55,459	
<b>普通社債券</b>				
第14回アサヒグループホールディングス	0.12	100,000	100,238	2025/10/15
第14回セブン&アイ・ホールディングス	0.19	100,000	100,399	2025/12/19
第15回Zホールディングス	0.35	100,000	100,240	2023/6/9
第67回神戸製鋼所	0.2	100,000	100,194	2026/6/10
第18回日立製作所	0.06	100,000	99,944	2023/3/10
第50回日本電気	0.29	100,000	100,155	2022/6/15
第46回IHI	0.22	100,000	100,018	2023/9/1
第1回明治安田生命2019基金	0.29	100,000	100,020	2024/8/2
第37回丸井グループ	0.12	100,000	99,867	2023/12/1
第19回みずほ銀行 (劣後特約付)	1.67	100,000	100,826	2022/2/24
第22回芙蓉総合リース	0.04	100,000	99,935	2022/10/28
第5回イオンフィナンシャルサービス	0.23	100,000	100,041	2022/5/27
第75回アコム	0.309	100,000	100,171	2023/2/28
第5回ソフトバンク	0.1	100,000	99,897	2023/7/28
第1回クレディ・アグリコル・エス・エー (2017)	0.443	100,000	100,155	2022/6/9
第6回マラヤン・バンキング	0.224	100,000	99,841	2023/2/13
小 計		1,600,000	1,601,941	
合 計		1,650,000	1,657,400	

## ○投資信託財産の構成

(2021年7月26日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 1,657,400	% 97.3
コール・ローン等、その他	46,192	2.7
投資信託財産総額	1,703,592	100.0



## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2021年7月26日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,703,592,348
コール・ローン等	44,168,741
公社債(評価額)	1,657,400,000
未収利息	1,797,580
前払費用	226,027
(B) 負債	53,898
未払解約金	53,855
未払利息	43
(C) 純資産総額(A-B)	1,703,538,450
元本	1,514,616,498
次期繰越損益金	188,921,952
(D) 受益権総口数	1,514,616,498口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,247円

## &lt;注記事項&gt;

- ①期首元本額 1,528,811,692円  
 期中追加設定元本額 286,499,964円  
 期中一部解約元本額 300,695,158円  
 また、1口当たり純資産額は、期末11,247円です。

## ②期末における元本の内訳（当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額）

三菱UFJ 積立ファンド（日本バランス型）	1,120,913,620円
三菱UFJ 国内バランス20	246,379,374円
日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）	120,848,172円
日本短期債券ファンドVA（適格機関投資家限定）	17,588,164円
三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド	8,887,168円
合計	1,514,616,498円

## ○損益の状況（2020年7月23日～2021年7月26日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	6,402,255
受取利息	6,424,384
支払利息	△ 22,129
(B) 有価証券売買損益	△ 158,620
売買益	3,686,000
売買損	△ 3,844,620
(C) 当期損益金(A+B)	6,243,635
(D) 前期繰越損益金	184,704,237
(E) 追加信託差損益金	35,074,648
(F) 解約差損益金	△ 37,100,568
(G) 計(C+D+E+F)	188,921,952
次期繰越損益金(G)	188,921,952

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。  
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。



# FRANKLIN TEMPLETON

フランクリン・テンプレトンは、創業以来  
ベンジャミン・フランクリンの肖像画をロゴマークとしております。  
創業者ルーパート・H・ジョンソン Sr.は、  
“With money and financial planning, prudence comes first.”  
(お金を増やそうとするときに一番大切なのは、用心深さである。)  
というベンジャミン・フランクリンのビジネス哲学に深く感銘し、  
アメリカ建国の父でもあり、偉大な科学者、  
そして優れた投資家でもあった彼の名を社名に冠しました。  
ベンジャミン・フランクリンの肖像画を用いたロゴマークは、  
ご投資家の皆様にとって、  
フランクリン・テンプレトンの資産運用サービスに対する  
信頼と安心の象徴となっております。